



2026 年 7 月 15 日

日本鉄道労働組合連合会

J R 九 州 労 組 「 第 35 回 定 期 大 会 」

働く仲間のための労働組合という不変の役割を果たす！

J R 九 州 労 組 は 7 月 10 日、福岡市内で第 35 回定期大会を開催した。会場には、代議員や傍聴者など総勢約 110 名が参集し、熱心な討議の下、2026 年度の運動方針を確立した。

執行部を代表してあいさつした吉田祥司中央執行委員長（J R 連合副会長）は、1 年間を振り返りながら安全衛生の確立、組織強化・活性化と拡大、労働条件の維持・改善、政治的な政策課題などの主要課題について所信を述べるとともに、「各級機関と全ての組合員が一致団結して多岐に渡る諸課題の解決に取り組んでいこう」と呼びかけた。



吉田中央執行委員長(左)
上村会長(右)

J R 連 合 か ら は 上 村 良 成 会 長 と 住 吉 一 家 労 働 政 策 局 長 が 出 席 し、上村会長から、生活を左右する法律や政策の決定には連合や交運労協が強く関わっていることに触れ、各地域での活動への参画に謝意を示したうえで、安全、組織、産業政策、労働政策、政治活動に関する直近の動向を報告した。

議事では、執行部からの提案に対して 26 名の代議員・特別代議員が発言に立ち、運動方針を補強した。執行部答弁の後に集約答弁に立った大久保浩書記長は、「安全・安心で働き続けられる職場と、持続的に発展する J R 九州グループを創りあげていこう」と訴え、全議案が承認された。

最後に、「働く仲間のための労働組合という不変の役割を果たす



ため、積極果敢に取り組む」と決意した大会宣言を採択し、吉田中央執行委員長の団結ガンバロウで大会を締めくくった。